

走り始めた水ビジネスの海外展開

～拡大する世界水ビジネス市場に向けて～

主催：(財)大阪科学技術センター 中堅・中小企業技術振興委員会
共催：日本水道新聞社 大阪支社

わが国の水道は高普及率を達成したため、設備投資は低迷し、長引く不況や節水志向などで料金収入の減少も続いています。収支厳しい経営環境の中ですが、先進的な水道技術、蓄積した力量を、水ビジネスとして海外で生かしていこうという努力が一部で始まっています。現在、国の支援もあって官民連携による海外市場に向けた国内体制づくりが行われていますが、技術力はあるも資力、人材難の中小企業にとって、海外市場にどう関わっていくのか、その手だては？などが問われているように思えます。本シンポジウムでは学識経験者のご見解をもとに、先進的な企業や、ユニークな企業の代表にお集まりいただき水ビジネス展開について考えたいと思います。

是非この機会に、水ビジネス参入を考える一助として活用していただきますようご案内申し上げます。

1. 開催日時：平成 23 年 9 月 13 日(火) 13:30～17:00
2. 開催場所：大阪科学技術センター 8階中ホール(大阪市西区靱本町 1-8-4)
3. プログラム：
 - 13:30 開会挨拶
 - 13:40 講演：「海外における水・環境ビジネスの展開 関西企業の強みは？」
京都大学 名誉教授 松井 三郎 氏
 - 14:20 講演：「官民連携による水ビジネスの展開と水道事業の経営改革」
㈱浜銀総合研究所 地域経営研究室 室長・主任研究員 佐藤 裕弥 氏
 - 15:00 休憩
 - 15:15 パネルディスカッション
モデレーター：日本水道新聞社大阪支社 編集委員 若勢 憲一 氏
パネリスト：京都大学 名誉教授 松井 三郎 氏
㈱浜銀総合研究所 地域経営研究室 室長・主任研究員 佐藤 裕弥 氏
㈱クボタ 常務執行役員 水・環境総合研究所長 岩部 秀樹 氏
㈱大阪水道総合サービス 代表取締役社長 山田 豊実 氏
㈱サニコン 代表取締役会長 假谷 登 氏
大成機工(株) 海外事業本部 参与 傍士 俱明 氏
(順不同)
 - 16:55 閉会挨拶
4. 参加費：大阪科学技術センター賛助会員 1,000 円
非会員 3,000 円 (当日受理)、自治体関係者 無料
5. 定員：100名(定員になり次第締切)
6. 参加申込方法：必要事項(会社・機関名、所属・役職名、貴名)と共に、E-mail で御連絡いただくか、もしくは別添FAX用紙にご記入の上ご返送下さい。
E-mail の宛先 nakayama@ostec.or.jp(中山行) **9月7日(水)迄**
7. 申込先・問合せ先：
〒550-0004 大阪市西区靱本町 1 - 8 - 4
(財)大阪科学技術センター 技術振興部 大原・(中山)
E-mail:m.ohara@ostec.or.jp TEL:06-6443-5322 FAX:06-6443-5319

FAX 申込用紙

(財)大阪科学技術センター - 技術振興部

中堅・中小企業技術振興委員会 事務局 中山行

FAX: 06 - 6443 - 5319

平成 23 年度グロバルビジネスシンポジウム

走り始めた水ビジネスの海外展開
～ 拡大する世界水ビジネス市場に向けて～ (9/13)

参加申込用紙

下記該当箇所に必要事項をご記入下さい

連絡締切日 9月7日(水)

会社・機関名

所属・役職名

フリガナ

貴名

TEL

FAX

E-mail

通信欄

お申込みに関する情報については当財団の事業活動のご案内、ご連絡を差し上げる目的以外には使用致しません。

講演者プロフィール

松井 三郎 京都大学名誉教授

京都市在住。専門は環境衛生工学。
国際環境政策学会会長、(株)松井三郎環境設計事務所代表、
北海道大学院客員教授、芝浦工大客員教授、水の安全保障機構委員

1944年大阪府生れ、1966年京都大学衛生工学科卒業、1968年京都大学大学院修士課程修了、1972年テキサス大学オースチン校大学院博士課程終了(PhD)。茨城県土木部技師、金沢大学工学部助教授を経て1987年京都大学工学部教授。2002年京都大学大学院地球環境学堂教授。2007年定年退職名誉教授、水制度改革国民会議元理事長



著書に「環境ホルモンの最前線」(共著2002年有斐閣)「京都学派の遺産―生と死と環境」(共著2008年晃洋書房)「地球環境保全の法としくみ」(編著2005年コロナ社)「今なぜ地球環境なのか」(編著2002年コロナ社)「生活水資源の循環技術」(共著2005年コロナ社)『都市水管理の先端分野 行きづまりか希望か』(共著2003年技報堂)、『地球ウィンドウズ 土木建設技術者のための地球環境入門』(編著1996年技報堂)他。

(財)国際湖沼環境委員会科学委員兼理事・評議員として第1回世界湖沼環境会議開催から26年に渡り貢献している。ストックホルム水会議科学プログラム委員(1996-2008年)。国連地球環境ファシリテーター(GEF)科学技術顧問(STAP)(2002-06年)をつとめ、地球環境問題対策に係わった。国際水協会(IWA)執行役員(2004-06年)を務めた。世界銀行、JICA、UNDP、イタリア・ベネチア政府等の国際コンサルタント活動の経験。国内では、平成20-21年福田、麻生首相「地球温暖化問題懇談会」委員。今年2月12日大津市で開催された国連環境計画(UNEP)主催の加藤登紀子さん親善大使報告会では海外の水問題、途上国支援について嘉田滋賀県知事と3人で講演トークショーを行った。

佐藤 裕弥 (株)浜銀総合研究所 地域戦略研究部 地域経営研究室 室長 主任研究員

1987年早稲田大学卒業。1992年(株)浜銀総合研究所入社。
2007年度より現職。中小企業診断士、修士(経営学)。

地方自治法・地方公営企業法を専門とし、財政健全化問題を担当。
現在、総務省自治大学校等にて講師を務める。全国の審議会等の委員として自治体債権管理の適正化に携わっている。
水道の財務、水制度についてのアナリストでもあり、日本水道協会(公共水道の約1500事業者で構成)の顧問役、京都府営水道をはじめ全国の水道局の顧問、審議会委員など幅広い活動をしている。



パネリスト紹介

岩部 秀樹 (株)クボタ 常務執行役員 水・環境総合研究所長

当社は「食料」「水」「環境」という世界的課題の解決に向けて、グローバルに事業展開を図っています。食料を支える農業機械はもとより、水・環境分野でも中国、インド、東南アジア諸国などアジアを中心に積極的な拡大に注力しています。膜技術から水道管まで幅広く製品を有しますが、その製品輸出に留まらず現地化を推進し、社会基盤整備への貢献を図っていきます。また、都市部のみならず農村部、農業との関係を深めていきます。



山田 豊実 (株)大阪水道総合サービス 代表取締役社長

当社は大阪市100%出資の株式会社(外郭団体)で、市町村等の水道事業をお手伝いするためのさまざまなサービスを提供しています。海外展開については、大阪市と大阪・関西の経済界が一体的に活動するための組織として「大阪市 水・環境ソリューション機構」が今年4月に設立されました。当社独自の取り組みとしては、今秋東京で開催される上下水道関係者の国際会議で発表・展示し、海外ビジネスの開拓を図っていきます。



假谷 登 (株)サニコン 代表取締役会長

(株)サニコンは水の専門家集団の会社です。15年前から海外にビジネスチャンスを見つけるためにアジア各国に出かけました。1998年にベトナムにターゲットを絞り、人材交流、人脈作り、現地調査、市場調査を繰り返し、2008年11月現地法人設立に参画しました。ベトナムは共産国であり、新興国であります。その国において、ビジネス展開するため弊社が採ってきた対策と実践についてお話し、今後進出される皆様方のお役に立てば光栄です。



傍士 倶明 大成機工(株) 海外事業本部 参与

当社は昭和16年の創業、70年の歴史を持つ水道・ガス管の維持管理メーカーです。国内外で500件以上の工業権を所有、特に、時代のニーズに対応した“不断水工法”は他社の追随を許さず、“日本から断水をなくした会社”として高い評価を頂いています。海外についても、フランス、オーストリア、アメリカ、香港等の企業と提携、製品・工法の技術を供与および導入し、世界の水インフラ発展にも注力しています。



モデレーター紹介

若勢 憲一 日本水道新聞社 編集委員

水ビジネスの海外展開は国内の水インフラ整備率の向上と仕事量の減少などを背景にした「必然的」な流れです。しかし、世界のトップレベルにある水道技術がなかなか売れない。その展開も遅い。国内市場が豊かであったこと。技術、経営の総合的、複合的な事業が公営で発展したこと。ODA支援がハード提供であったことなどが、影響しているように思えます。現在、国主導で協議会づくり、地方での官民連携など水ビジネスを巡る環境整備が進んでいます。それをどう生かすのか、中小企業にとって海外展開をどう図るのかもそろそろ考える時期だと思えます。

